

2025年8月19日

**「BankVision2.0」の第二弾として、
API 公開・連携サービスの機能強化を図り、API エコノミー創出を支援**
～「BankVision サービス GW Plus」、「CX Linkage」を提供開始し、鹿児島銀行で導入～

BIPROGY は、オープン勘定系システム「BankVision」のさらなる価値向上に向けた取り組みとして「BankVision2.0」を進めており、第二弾として「BankVision サービス GW Plus（バンクビジョン サービス ゲートウェイ プラス）」、API 連携サービス「CX Linkage（シーエックスリンクエージ）」を提供開始しました。

本機能により、「BankVision」における API 公開を更に容易に実施することが可能となり、開発効率とスピードの向上を実現します。また、銀行内部と外部サービス間の連携をスムーズに行うことで開発生産性および顧客利便性の向上や、API エコノミーの構築が可能となります。

なお、本サービスは、株式会社鹿児島銀行（本店：鹿児島県鹿児島市、頭取：郡山 明久氏、以下 鹿児島銀行）に採用され、すでに稼働を開始しています。

【背景】

現在の銀行業界では、従来の店舗対応に加え、非対面チャネルの利用増加や、エンベデッドファイナンス（組込型金融サービス）活用による金融サービス提供の拡大が見込まれ、外部チャネル・サービスとの連携がより重要になってきています。

このような状況下、BIPROGY は、2018 年 4 月から稼働しているオープン API 公開基盤「Resonatex（レゾナテックス）」に加え、「BankVision」と外部チャネル・サービスとの柔軟な接続を実現する、「BankVision サービス GW Plus」および API 連携サービス「CX Linkage」の提供を開始しました。

【サービス概要】

1. 「BankVision サービス GW Plus」について

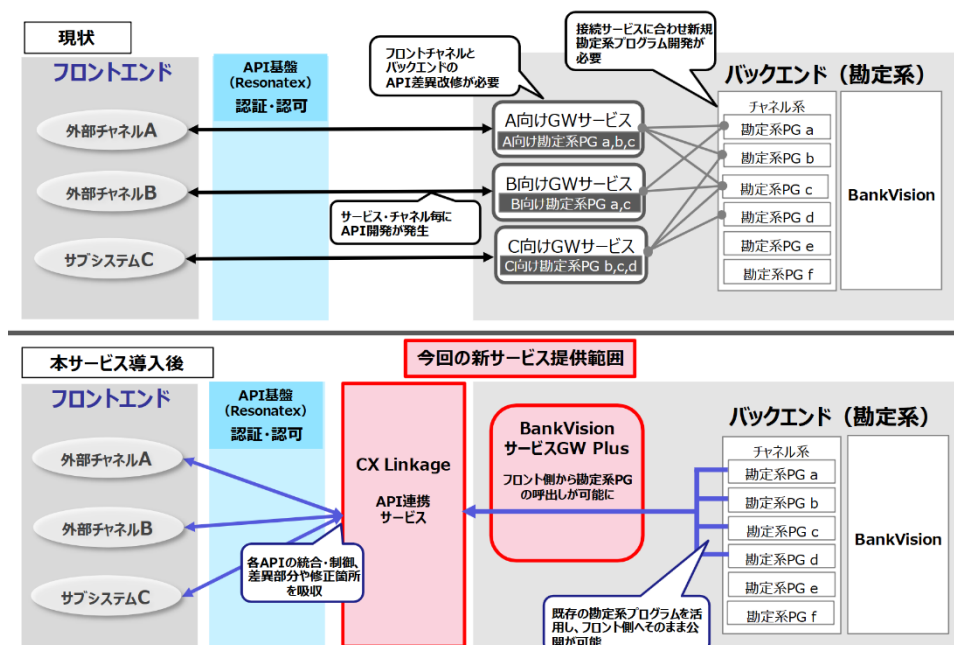
従来「BankVision」では柔軟性を備えたアプリケーション設計とオープンプラットフォームの採用により、勘定系 API を容易に公開することが可能でした。今回さらに、ゲートウェイサービスに公開機能を拡充することにより、既存の勘定系プログラムに手を加えることなく Web API としてフロントシステムへ公開することが可能となります。これにより、「BankVision」の API 公開における開発負荷のさらなる軽減を実現します。

2. 「CX Linkage」について

「BankVision サービス GW Plus」に加え、API 連携サービス「CX Linkage」を活用することで、開発負荷をさらに軽減することができます。フロントシステムと勘定系システムの間位置付く「CX Linkage」が各 API の統合や制御を行うことで、各システムとの接続における差異部分や修正箇所を吸収することが可能となります。これによって、勘定系システムおよび各システムの改修負荷軽減が図れることから、より容易なシステム連携を実現できます。

さらに、「CX Linkage」はエンドユーザー側の更新や動きを察知し各チャネル・サービスに自動的に連携できます。各チャネルを横断した顧客アプローチを実現することで、金融機関の顧客接点強化やエンゲージメント向上に貢献します。

■ 本サービス概要図



【鹿児島銀行への導入効果】

両サービス導入により、期待される効果は以下の通りです。

- ① 既存勘定系プログラムの活用が可能となり、対応スピードの向上および開発負荷軽減
- ② フロントシステムとの連携時に、フロント・勘定系システムにおける開発負荷軽減
- ③ デジタルチャネルを通じた CX およびエンゲージメントの向上

【今後の展開】

BIPROGY では、2007 年のオープン勘定系システム「BankVision」稼働開始以降、インフラ基盤の仮想化やクラウド化、API 連携の活性化などを先駆けて実施しています。

また、これまでの取り組みに加え、「BankVision」のさらなる価値向上に向けた取り組み「BankVision2.0」として、第一弾の BCP 対策の高度化、サイバーセキュリティ対策の高度化、第二弾の API 連携サービスの機能強化に続き、今後は生成 AI の活用など、新技術の取り込みについても検討していきます。

以上

【BankVision2.0 が目指す API エコノミー】

既存のオープン API 公開基盤「Resonatex」に加え、「BankVision サービス GW Plus」「CX Linkage」を提供することで、企業間システムの連携を可能とする「API 公開・連携サービス」の機能強化を図り、よりオープンな金融サービスを実現します。従来までは、企業ごとのシステムが相互に接続されず、閉域的な経済圏に留まっていたましたが、本サービスを通じて異業種間との連携が容易になることで、API エコノミーの構築が可能となります。これにより、流動的なビジネス環境やマーケットの変化に応じ、相互にサービスを補完し合うことで、業種業態の垣根を越えた新たなビジネス機会・イノベーションの創出を目指します。

BankVision2.0が目指すAPIエコノミー

内部・外部システムとのスムーズな接続を可能とし、自社・他社サービス組み合わせによる、新たなビジネス・経済圏を創出



■関連リンク：

・オープン勘定系システム BankVision：

<https://www.biprogy.com/solution/service/bankvision.html>

・2025年5月30日付ニュースリリース

オープン勘定系システム「BankVision」のさらなる価値向上に向けた取り組みとして「BankVision2.0」に着手

https://www.biprogy.com/pdf/news/nr_250530.pdf

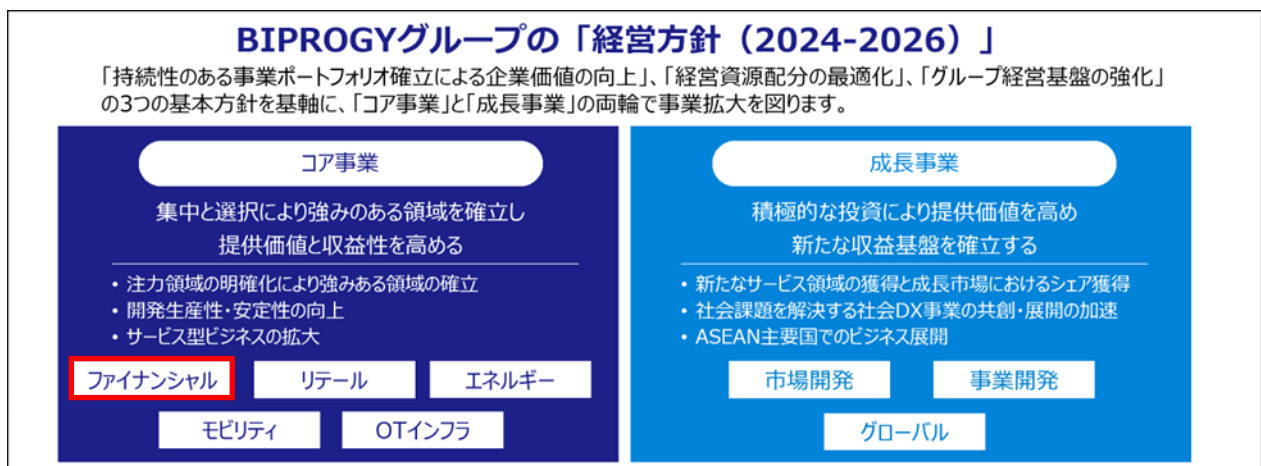
※BankVision、CX Linkage、Resonatex は、BIPROGY 株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/



【コア事業での取り組み】

BIPROGY グループが経営方針（2024-2026）で掲げるコア事業戦略として、五つの注力領域を定め、経営資源の集中により高い価値提供を目指します。本ニュースリリースの事業は、「ファイナンシャル領域」における取り組みと位置付けています。

BIPROGY グループは、多くのステークホルダーとの共創を通じて、地域経済の活性化を支援し、持続可能な社会の実現を目指します。

※BIPROGY グループ経営方針（2024-2026）

<https://www.biprogy.com/pdf/com/managementpolicy2024-26.pdf>